



絆

津波で家が流されてしまい、今は塩釜市庚塚の仮設住宅に住んでいる内海市五郎さん（82）とカ子さん（82）。1週間に1度船に乗って来て、住宅跡地で野菜を作っています。

5/26 塩釜市桂島



フォトスケッチ

2011年3月11日発生した東日本大震災の翌日から、民医連の全国の仲間や宮城県医連職員の取組みを紹介してきた「宮城県医連東日本大震災災害復興ニュース」は、今号でお休みすることになりました。

被災されたみなさんの“困難”はこれからも続きます。私たちは民医連職員として、被災者に寄り添うこと、自分の出来ることに取り組むことを忘れないでいきたいと思います。

“絆” “仲間” “家族” これからも大切にしていきたいキーワードです。

発行者 神馬 悟（宮城県医連）

2012年5月29日



仲間

仮設住宅の集会室で、お茶飲みしていたお母さん達。せっかくなのでお花の前で写真を撮りましょうとお誘いしました。

坂総合病院にリハビリで入院していたお母さんや、桂島の菜の花観光のパンフレットのモデルになったお母さんもいました。元気ハツラツの皆さんです！



家族

東日本大震災の直後に生まれた内海昭治さん（38）と清美さん（40）の長男昇竜君です。地震の時はパパもママも北海道にいました。本当は宮城で出産する予定でしたが、急遽、北海道の病院で出産することに。

1歳を過ぎてますますやんちゃになりました。写真を渡した時に、パパとママが喜ぶ顔を見て、昇竜君も嬉しそうに手をパチパチしていました。